

令和3年度 島根県学力調査結果及び分析（松江市立義務教育学校八束学園 後期課程）

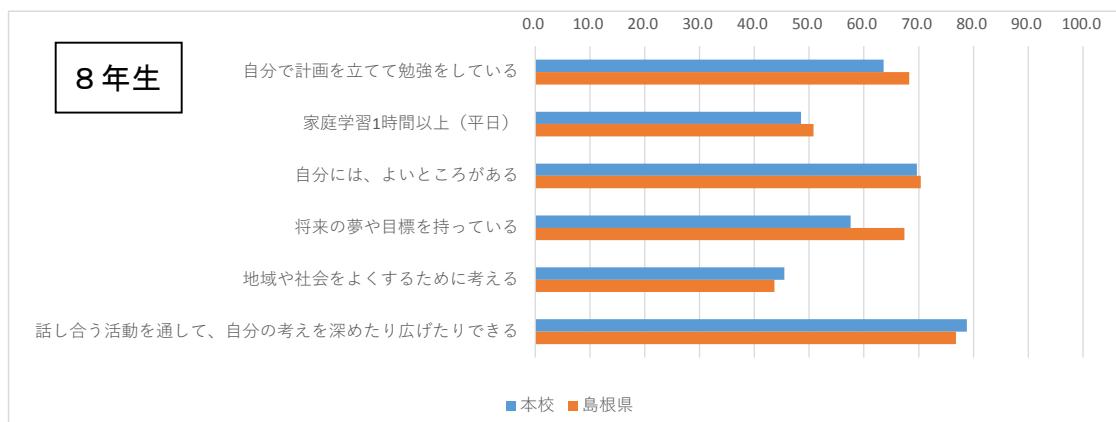
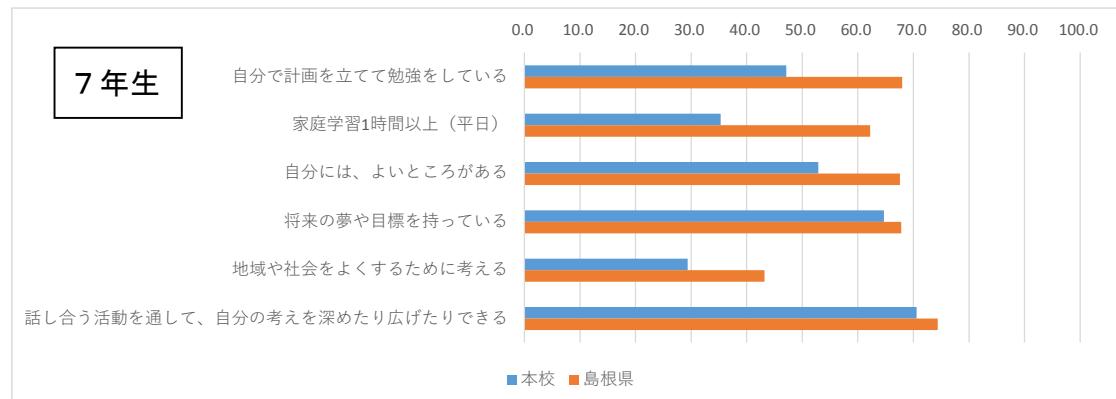
(1)学力調査結果から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

7年国語	○文章題の読み取り(説明的・文学的な文章)は、全体的に正答率が高く、目標値を大きく上回っている。 ●「書くこと」の領域は、目標値を大きく下回っているため、今後この領域の強化が課題である。	8年国語	○「漢字の読み書き」「説明文の読み取り」は、全体的に目標値を上回っている。 ●「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」の領域は、目標値を大きく下回っているため、今後この領域の強化が課題である。
7年数学	○平面図形の領域の正答率が県平均を上回っている。基本的な性質を理解しており、技能が身についている。 ●数と式の領域の正答率が県平均を下回っている。基本的な計算はできているが、複雑な計算になると、正答率が低くなっている。	8年数学	○数と式の領域の正答率が県平均より高く、基本的な計算の技能が身についている。また、連立方程式を利用して文章題を解く力も身についている。 ●関数の領域の正答率が県平均よりも低い。1次関数の意味や基本的な性質についての理解が不十分である。
7年英語	○英文を読む問題では県平均を上回っており、必要な情報を読みとる力が身についている。 ●場面に応じ、テーマに沿った英文を書く問題では正答率が低く、語彙や文法理解の理解が不十分で、基礎・基本の知識の定着が求められる。	8年英語	○英作文を書く問題では県平均より2.1ポイント高く、場面に応じて適切な英語表現を用いることができる。 ●知識・技能の問題では県平均を下回っており、語彙や語法など英語の基礎的な知識の定着が課題である。

(2)生活意識調査から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

7年	○地域や家族の一員として、家族との時間を大切にし、地域の活動に積極的に参加する姿勢がうかがえる。特に、食生活に関する項目で高い割合を示している。 ●学習に関する項目では、県平均を下回っている項目が多い。特に、集中して学習することが苦手で、今後、自分で計画的に学習を進めていくことが課題である。	8年	○自分は他者から認められているという項目では、県平均を上回っている。「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合が80%以上であり、自己肯定感が高い学園生が多い。 ●家庭学習に関する項目では、県平均を下回っている。家庭学習を行う習慣の定着が課題である。
----	---	----	---

(3)意識調査(教育委員会として注目している項目のうち、全国学力・学習状況調査と同様の質問項目を挙げています)



【受検者数】 7年生 17名 8年生 33名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。